令和２年度 第３回総合教育会議議事概要

日 時：令和３年３月２３日（火） 午前１０時００分 ～ 午前１１時００分
場 所：名張市役所２階 庁議室
出席者：名張市長 亀井利克
名張市教育委員会 教育長 西山嘉一
委員 川原尚子、委員　辻愛、委員　丸下純一、委員 藤本 幸生

《事務局》
総括監 田中克広
総合企画政策室 室長 深井克治、総合企画係長 梶本哲生
地域環境部　地域経営室長　中木屋　恵理子
教育委員会事務局 教育次長 手島左千夫
教育総務室 室長 大西哲、参事 森永美紀子、教育総務係長 金森國康
文化生涯学習室長　要　美義

（事務局）本日は、令和２年度第３回の名張市総合教育会議の開催にあたりまして、皆様方お忙しい中お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、初めに、市長よりご挨拶をいただきまして、その後、「名張市総合教育会議　運営要領」第３条第１項に基づきまして、市長に進行をお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願いいたします。

（市長）おはようございます。今年度３回目の総合教育会議をお願いいたしましたところ年度変わりで何かとご多繁の中でございます。万障繰り合わせをいただいて、ご参加をいただいた委員の皆様方にお礼を申し上げますと共に、また、その皆様方には、日頃からも名張市教育の充実、そして、青少年の健全育成等々、特段のご高配をいただいておるわけでございまして、重ねてお礼申し上げる次第でございます。

昨年は、コロナで開けて、コロナでくれたそんな年でございますが、今年に入りましてからも未だ収束の方向にはないわけでございます。そこで我々は、この状態こそもう日常である、そんな風に受け止めさせていただきまして、全ての行事、全ての会議等中止にするということではなくして、万難を排し、規模を縮小し、時間を短縮し、そして、三密を避けて出来る限り、その行事、会議等実施していくことといたしているわけでございまして、これは、学校においても同様でございます。これまた、引き続きのご指導を賜りますようにお願いいたしたいと存じます。

今年は、東京オリパラが開催の予定でございます。いよいよ来月８日に、赤目滝を聖火が

出発するわけでございます。そして、８月から10月にかけまして、これが三重とこわか国体・三重とこわか大会が開催される訳でございます。いずれもコロナ禍での行事、大会となるわけでございますけれども、私どもは、大成功に終わらせるべく、今、抜かりないその準備を進めておりますけれども、これまた、引き続きのご指導をよろしくお願いをいたしたいと存じます。

GIGA スクールでございますけれども、これは、ご案内の通り、かねてから教職員がかなり以前からですが、その研修を続けておりまして、スムーズにこの事業が展開されているわけでございます。私どもは、これからもよりその事業の充実、そして、更なる活用等につきまして検討を進めていきたいとこの様に思っておりますので、これもご指導、ご支援、ご協力を賜りますようにお願いいたしたいと存じます。

尚でございますけれども、ご案内のとおり、昨年の10月に藤本幸生氏が教育委員にご就任になったわけでございまして、総合教育会議はこれが初めてでございますので、この後、その決意の程を述べていただければ、どうかよろしくお願いをいたしたいと存じます。それでは、よろしくお願いします。

(教育委員)失礼いたします。昨年の１０月２日付けをもちまして教育委員を拝命致しました藤本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

前回の会議、大事な会議であったわけでございますが、欠席ということで大変ご迷惑をお掛けいたしました。申し訳ございませんでした。

ご存じのように、教育界も本当に様々な改革が進められております。それに伴いまして、本市におきましても、学校関係では、小中一貫教育、そして、コミュニティー・スクールの導入、更に最近では、GIGA スクール構想と様々な施策が展開されているわけですけれども、その一方で、学校現場の方では、子ども達やその環境に伴う様々な教育課題が見えてきております。そういった中で、課題を少しでも改善、克服すべく、そしてまた、名張市の教育の充実、発展に向けまして、微力ではございますけれども、皆様方のご指導を賜りながら、今後とも少しでもお力になれればという風に考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（市長）ありがとうございます。

１．　次期「名張市教育大綱」の策定について

（市長）それでは、早速議事に入りたいと思いますが、この総合教育会議の予定といたしまして、１１時までの１時間と一応させていただいてございますので、ご協力方をよろしくお願いいたしたいと存じます。

それでは、まず、事項書１でございますけれども、次期名張市教育大綱の策定について、

これを議題といたします。事務局、説明願います。

【事務局説明】

（市長）説明は以上でございますが、何かお気づきの点、また、更なるご意見等がございましたらどうぞ仰っていただければ。

(教育委員)はい。ありがとうございます。非常に前回の検討を加味していただき、わかりやすく簡潔に一番肝心な大綱ですので、まとめていただき、良かったなと思います。
逆に市長さんの感想はいかがなものでしょうか。

（市長）この中で、私は一番注目しているのは、誰一人取り残さないとこういう事です。これは、あまり軽々に使われる言葉ではないと思いますが、ただ、これは、絶対に入れておくべき言葉であるわけです。これは、何かというと、行政というのは、申請が無いとこれは仕事できない、動けない。それで、相談が無いと取り組めない。誰一人取り残さないのは、そういう人を見つけ出す。例えば、ヤングケアラーにしても、見つけ出す。そして、寄り添い伴走型の支援をしていく。これ物凄く難しいこと。誰一人取り残さない。今でも誰一人取り残さないって言っているけど、これほど重い言葉はない。一番、行政として苦手な分野でもあります。これはしっかりしてやってもらわないといけないし、ただ、名張の場合は、地域づくりがどんどんと進化していって、共生社会というのになってきている。そういう地盤が出来ている。そして、そこを見つけ出す、そういう体制、地域福祉教育総合ネットワークとか、そういう組織もきっちりなっている。これ、国が今、参考にして断らない相談事業をやっていますが、名張を参考にして作りましたと言っていますけれども、そういうことであったり、民生児童委員さん或るいはまた、まちの保健室とか、或いは地域割の保健師であったり、そういう取組と、コミュニティ・スクールであったり、もう重層的にそういう事を出来てやっていけるという体制が整えられているわけです。ですから、ここらを上手く機能させて本当に誰一人取り残さないという、そういう社会を目指してやっていきたいと、この様に思っているところでございます。私は、そういう考えですから。何か。お気づきのこと、ございましたら。

(教育委員)ありがとうございます。SDGｓの理念を非常に重視されているという、市長のお話、私も非常に感銘を受けて拝聴させていただきました。自治体自体がこういった事に積極的に取り組んでいただく中で、住民の方の意識高揚も図れるという風に思っておりますので、非常に良い大綱であると、その柱を謳っていただいているなと思います。以上です。ありがとうございます。

(教育委員)どうもありがとうございました。やはり、市長と教育委員会と一体となってですね、名張の宝である子ども達のため、財産である子供達のためということですので、いま、聞かせていただきありがとうございます。

(教育委員)皆さん仰っていただいた様に、本当に全ての市民の方に通じるものになったのではないかと思いました。

　あと一つ、お聞かせいただきたいのですが、4ページ。新しく矢印を入れていただきましたが、、生涯学習ですね。生涯学習に関する指針というところは、子どもは対象に入っていないという矢印になってますが、次の議題にも通じることですが、生涯学習センター機能という事で、子どもを核とした生涯学習センター機能をつくっていくという事なので、もう対象というのを外すのは、矛盾しているのかなと私的には感じたんですが、いかがでしょうか。

(事務局)ここのところでは、主として誰がというふうなところで、行政としては子ども対象というなかで、次の名張市の地域における生涯学習の推進の指針につきましては、子どもを核とした、周りを取り巻くという風な中での、そういう扱いというところで、少し分類させていただいたところです。

(市長)これについて、なんか痛いとこ突かれたなという感じがする。

(教育委員)名張市の地域における生涯学習推進に関する指針でございますので、先程もお話ちょっと出てたんですが、本来、生涯学習といいますと、子どもも含めての話となってくるんです。ただ、今、名張市の中にある地域における指針、そこまでまだ、至っていない指針でございますので、その部分のみを補完するという意味で、子ども教育ビジョンの後期計画の中で、子どもから視点を当てて、今回のネットワークをつくっていくと、本来ならば、生涯学習推進計画的な物をつくっていかなければなりませんが、まだ名張市のこのような地域の指針は至ってなかった。このところのすみわけをしたという様に一旦は考えていただけたらなあという風に思います。

(教育委員)教育長さん仰っていただいた形で、理解をさせていただいておったんですけれども。別件でもよいですか?

(市長) これの議題でまず。

(教育委員)子どもも生涯学習、今の子ども学習もそうですけど、やはりずっと将来を見込んで、最終的には地域の担い手になっていく子どもを育てていく。名張市自身も重点に置いていただきますので、そういった点からもこうした仕組みでいいのかなと思います。

(市長) 実は、名張市は公民館を廃止したんですね。公民館条例を廃止しまして、市民センターにしたんです。その中の一つは、公民館ではカフェとか、お金のやり取りが出来ないとかそういうことがあったり、子どもが障子をやぶってしまうとか、子どもに対する取組がものすごく弱かったんです。
それは、違う。子どもの城としても、使ってもらわなあかんと、そういう事で、公民館条例廃止して、市民センターと改めて地域に委ねて自由にやってくれと、皆で草刈り奉仕やっていて帰ってきてから缶ビール開けてもかまわない、そういうことまでも、言わせてもらっているものですからことについては、どうかなと思いますが教育委員どうですか。

(教育委員)前回この、誰に対する施策なのかな、はっきりしないということを私の方から申し上げていたものですから、それに対応して記述を加えていただいたという面では、非常に有難く存じております。確かに、真意としては非常に生涯学習としては全ての方が含まれるということで、矢印が長く伸びてますので、これでカバー出来ているのかなと思ったりもしておりますし、要は、ただ、右側の左側の四つの部分については、子どもを中心とした、子どもに焦点を当ててるというような意味での矢印だと思いますので、まあ、何といいましょうか取り方によっては、色々かもしれませんけれども、まあ、これでも分からないでもないなと思っております。

(市長)今、教育長、教育委員がおっしゃっていただいたそういう風な受け止め方で、下の矢印表現もありますので、これは、このままでいいですか。

(教育委員)そうですね。下の矢印表現でカバー出来ているかなあという風には、思います。

(市長)それでは、他にですが、はい。教育委員どうぞ。別件で。

(教育委員)前回、欠席させていただいておったんですけれども、感想的なことで、名張市の教育振興基本計画として、今、子ども達の教育ビジョンを出していただいて、流れとしてSDGｓも取り入れていただき夢のある大綱としていただいているなと感じさせていただいております。
細かいことですが、６ページの５番の未来への創造【創生】で、４つの項目をあげていただいております。項目は皆並列であると思うんですけれども、人権に関わっての会議にも参画させていただいておりますが、名張市の明るく住みよい人権尊重都市名張市を目指してということで、本当に住民一人一人がお互いの人権とか尊厳そういったものを認め合っている。それが当たり前の社会になっていかなければならない。そういった点で短い言葉ですが、3つ目の「皆が大切にされ」とそういった意味合いがあっていたただくんだと思うんですが、

この項目が、最初にきて安全・安心という一人一人が生きていく中で、大前提ですので、最初にきて、その後に名張市が目指していただいております、自立社会といいますか、キーワードは自立・協働だと思うんですが、その内容は２つ目、１つ目２つ目と続いていくとそういう形はどうかなと。

(市長)はい。これについて、何かご意見はありませんか。「皆が大切にされ」というのをまず、一番上に持っていったらどうかと。事務局。

(事務局)今回、この改定にあたりましては、前回の大綱がありまして、それの修正という風な形で総合計画であったりとか、教育ビジョンの構想であったりとか意識の期間中の中での大綱の修正という風なことでしたので、そこの基本的なところにおいては据置き、今の時代にあった中での修正の心がけさせていただきました。その中では、SDGs であったりとか、誰一人とか、誰一人取り残さないとか、そういう風な、また、人生１００年時代であったりとか、そういう風な言葉を新たに加えさせていただいた中で、対応させていただいたということでございます。その中で、教育委員さん仰っていただいた項目が、３つ目の項目に入ったとそういう風なことでございます。以上でございます。

(市長)事務局はこの順番を変えたくないという事か。

(事務局)変えたく無いというか、前回の大綱を意識した中での微調整をさせていただいた。

(市長)前回にこだわる必要はないが、事務局としてはこの順番にこだわっているのか。教育次長、何かあったら。

(教育次長)すみません。ご意見いただいて、確かに仰るようにその人権というものでは、先程ご意見あったように「みんなが大切にされ」、この一文に重い気持ちを込めさせていただいております。ただ、反面、順番にこだわっているかどうかというと、こだわってはいません。先程、教育総務室長がお答え申し上げたようにその前回の踏襲ということで、組み立てさせていただいたのが一つと、名張市の今現状、基盤、整ってきているその一番根本は、市民の方々が自主自立をされて、名張を創造していただいている、そういうことであったり、更に地域間ネットワーク、この繋げていただいて多種多様な主体が連携・共同されていると、ここが日本の名張市の基本というか肝になるだろうという思いは、当然ありますし、以前の大綱でもそういった思いでここが、この順番になっておったんだろうなと推測させていただいております。ただ、繰り返しになるけれども順番についてですね、私自身は何もこだわりはもっておりません。以上です。

(事務局)すみません。補足になりますけれども、それぞれ認め合いますとかそういったお話については、５ページの基本方針の１、生涯現役社会の創造【活躍】の１つ目に、「市民が互いを尊重し認め合い、多様な個性・能力を生かして・・・」こういうところでも、人権に関する考え方などを書かせてはいただいております。

(教育委員)すみません。人権をもってくるというところに意義があるんですけれども、そこ言わせていただきたいところは人権を絡めてまちを名張市をつくっていくために、一人一人が大切にされるところから、それぞれの関りが出来てきて自立であったり、協働であったりとか、そういう社会を大きな課題であると思うのですが、一人一人がまず安全で安心に暮らせるということがベースであると、そういうベースを上にもってきたほうが、通じやすいのではないかという感覚ですので、人権がどうこうということだけでなしに、そういったことで申し上げている。仰っていただいたこと、わからせていただいておりますけれども。

(教育長)あの。やはり子どもがこだわってないとするならば、やはり、一人一人が安心・安全というのがまず、ベースになってくるかなあと、その上でまちづくりが出来てくる、そういうことを考えるならばやはり、ベースの３つ目のところ、一番上に上げるという風なことも必要かなあと。

(教育委員)そうですね。今、色んな意見聞かせていただいて、なるほどなあと、子ども達というのがまた、この中で重きにおかれるんでしたら、まあ今、コロナ禍で大変だと思いますが、安全・安心な名張を創造するところ、これまあ、色んな意味を加えてですね、一番先頭に持っていっていただく方がいいんじゃないかなあと。

(教育委員)そうですね。私も、やっぱり、その今のこの時代、安心・安全というところがすごく大事ではないかなあと思いますので、そうですね。順番変えるのも一つではないかと思います。

(教育委員)はい。ありがとうございます。私は、特に順番に拘りません。それぞれ練られた文章だと思いますので、はい。

(市長)拘らないということで、３つ目の内容を一番上に上げることにします。
これについて、いつも私、挨拶でも言わせてもらっている、共生社会の一丁目一番地というのは人権。お互いが認め合う、そんな社会でないと、共生社会というものは生まれてこない。だから、これを一番先頭にもってくることはいいと思う。他にどうですか。

(教育委員)恐れ入ります。先程のよろしいでしょうか。先程の４ページの矢印の、また蒸し

返して申し訳ないんですが、５ページの６の基本方針の中の３、豊かな心と健やかな体の創造の中で、２つ目で生涯スポーツの事があり、それで、いつでも誰でもという事があってですね、また、スポーツ推進計画の中身自体が広い年代の方に対応するような形の計画、そのボリュームによると思うんですが、何と言いましょうか、４ページの子どもを対象というのが、単に子どもだけを対象としているというよりかは、子どもを中心にというような位置づけていただく方が、このスポーツ推進計画の部分についてもちょっと、もし、子どもだけ、何というんでしょう、ここは重なってはいるんですが、何となくこうまだ違和感がないでもないですね。スポーツ推進計画の半分ぐらい、子どもが、入っているのかどうか、もし、ここ、矢印抜いたらイメージがちょっと違うのかどうか。何と言いましょうか、何ともここは、はっきりしないとこかなあと、やっぱり思っております。すみません。蒸し返しまして。

(市長)これは、子ども対象というたら子どもだけが対象に思われがちになるか、全ての年代を対象としながら。

(事務局)すみません。実は、ちょっと表現のところで、迷ったことがあるんですが、子ども対象というところ、左側から右側に色が薄くなっていて、グラデーションで関わり方を表現しています。

(市長)これは説明がないとわからない。

(事務局)左側の方が子どもにより近いという風なところですけれども、それはまあ、この図の中だけでは、皆さんにも伝わり難かったのかなあという風なところがあります。スポーツ推進計画ついては、子どもだけでは当然ないです。大人も含めた中なんですけど、左側に行くほど、より子どもに近いという風な扱いでの表記にしていました。色々と表記の方法を考えていた訳ですけど、最終行きついた所がこういう所で留まって、ちょっと、誤解を招くところであるのかなあと思っております。

場合によっては、その前回の会議の中で誰を対象としたというのが、判りにくかった、また、表記の仕方がばらばらで子どもであったり、大人であったりというのが、ばらばらだったので、そういう風な中では、左側からより近い子どもから右に大人に行くという風な順番に並べた訳ですけど、その対象の対象というのが、前回の会議ではいただいているわけですけど、表記としては、そうすると、矢印を短くすることも必要になってくるのかなあという風な。スポーツまで子どもを対象としているところをスポーツまで伸ばさずに子ども読書活動推進計画までに留めてしまうか。そういったところで、修正をさせていただくのがどうかと。どうでしょうか。改めてご提案とさせていただいきたいんですけど。

(市長)グラデーションで表現か。濃さでの表現は、中々気づかなかったな。

(事務局)申し訳ございません。カラーでしたら、もう少し分かりやすかったのかもわかりません。

(市長)下の全ての年代を対象というのがあるし、ここで、子供の関りをグラデーションで示すのもありかな。

(教育委員)表記の仕方って、非常にテクニカルな技術的なことなんだと思うんですけれども、先程、色でグラデーション付けていらっしゃるのは、ご主旨良く分かりました。結局、太さみたいなことなんだろうなと、左側に子どもがいて右側に高齢の方がいらっしゃる、ずっとこう、なんていうんでしょうか、その左側から右側に向けての施策が、段々と狭まっていく感じ、その下の大人の人の方が段々増えていくようなそういうような年代層に渡るようなイメージなのかなあということは良く分かりました。もちろん、四次元マトリックスにしたりとか太さを少し、三角の形にしてやるとか、まあそんなようなこともできるのかなあと思います。色だと判りにくいという事であればちょっと子どもが太めで最初始まって、子どもが段々細くなって成人一般という感じで、太くなる。スペースもありますので、その当たりはお任せしたいと思うんですが、先程のスポーツの下のところは、矢印短めにとご提案を納得できます。趣旨として良く分かります。

(教育長)やはり、スポーツの中にも確かに子どもは入るとしても、ちょっと今言っているスポーツと生涯学習の地域における生涯学習の指針も含めたら、ちょっとここのスポーツの指針入ると子ども入るとしたら、違和感を与えてしまうかなあ。いうようなことで、結論から言いますと、子ども読書計画のところで、子どもを対象とした、一旦区切ってしまったら、下にも全ての年代を対象というのがありますので、そこで短くしたらそこでも成立するかなあと思うんですけど。

(市長)まあ、そうしたらこの表記の仕方、今、ご意見もいただいたので、もうちょっと解かりやすいようにしていただくと。
し、そうしておくとして、他にございませんか。
まあ、こういう宿題はありますが、また、後でこれ報告をいただくと言う事に致しておきます。

２．　生涯学習について

（市長）それでは、次、2 項目が「生涯学習について」を議題とします。
事務局、説明をお願いします。

【事務局説明】

（市長）どうも分かり難いなあ。あのう、資料の作り方は、仮に今日、欠席された方に対しても、概ね、なるほど、こういう流れでこうなってきたのかという事が分かるような資料を作ること。前段説明していた事が資料に書かれていない。色んなそういう流れがあって、ここへこういうとこへきているということがわかる資料にしなければならない。それと、今、いろんな行事の事も説明あったが、例えばふるさと講座でもそうやけども、不特定多数を対象とする場合は、必ずあらかじめ登録してもらう予約制にしたと、これは、仮にクラスター等が起こった場合、感染経路の特定には必要なので、それは予め登録していただき参加してもらうことこれは徹底してもらわなければ。
本件について、何かご意見の方どうぞ。

(教育委員)すいません。一般的なことをお聞きいたします。
今まで、公民館が市民センターに移ってそれぞれの地域の方で自主的にやっていただいているということなんですが、利用者の数とか、色々、色んな地域においては、差があると思うんですけれども、温度差というか、熱心にやっておられるとことか、ちょっと忙しくて出来ないところとかあるんですが、そういった時に、定期的に訪問されてですね、意見・情報を聞かれたり、対応されたり、とかはされていただいているんでしょうか。教えて下さい。

(事務局)はい。勿論、定期的にご訪問させていただきますし、日々、困った事があったりとか、問題がありますと、お電話も頂戴しまして、出向かせていただいて、対応させていただいております。

(教育委員)はい、ありがとうございます。それと、すみません。もう一点ですけれども、インターネットでですね、ホームページ見せて頂いたら、生涯学習インフォメーションということでこの案内があったんですけれども、これに対して、色々講座する時はこういう事したいとか、何か、問い合わせあったら、是非お電話くださいという事のホームページあったんですけれども、これについては、どうでしょうか。１か月・１年どれぐらいの問い合わせがあって、その講座に興味持たれた方とか、やられている地域の方とか、問い合わせがあるのでしょうか。

(事務局)市民の方からいただくのは、こういう趣味をしたい、どういう講座がありますかという問い合わせが年間通じまして少ないですけれども、多少あるのと、後、市民センターからは、次にこういう講座がしたいんだけれども、誰か良い先生、講師の先生を紹介してもらえませんか。とか、問い合わせがありまして、対応をさせていただくことはございます。

(教育委員)ちゃんと、明記していただいてありますので、これからは、相談ありましたら、また、対応をよろしくお願いします。それともう一点だけ、ごめんなさい。
今、本当に一生懸命やられている方、７０歳前後の方が本当に素晴らしく活動していただいて、その後の年代が非常に心配なんですけど、それについては、どういう風にお考えなのかをちょっと聞かせていただきたいと思います。

(事務局)はい。すみません。仰っていただくように、地域の活動であったり、今現在、様々なところで、担い手不足という事が課題になっております。市の方では、夢づくり協働塾といいまして、人材の育成の研修であったり、様々な地域の取組ですね、事業に参加していただくことで、特に若者であったり、子どもさんのイベント事業なんかを多く取り入れて地域が実施していただく事で、その親御さんも一緒に参加していただいてって事で、良い方については、「どう？やってみない？」とかいうようなことで声掛けをさせていただいたりとか、ちょっと動きが良いお母さんとか、お父さんとか参加、協力いただきたい、そんな方については、地域の方でも声をかけるなど、そういう風な形で取り組んでいただいて、次の担い手なんかも十分探していただく努力をしていただいております。

(市長)はい。他にどうですか。

(教育委員)生涯学習センター機能のネットワークの構築、非常に大事だなと、感じさせていただいております。その理由は 2 つありまして、1 つは、まあ、子ども達を中心に考えて、生きる力の育成とか、その為に色んな体験、地域に出ていって活動をやっている。それはすでに地域において行われていると思うんですが、今求められているのは体制づくりとか、仕組みづくりが、大事だと言われていて持続可能な形でしていくためには、欠かせないことだと思いますが、その為に個々に行って学んでくるだけとは違って、どういう人材があって、どういう資源があるだということをきちっと市も把握して、適材適所で派遣できるとか、お互いにその目的を共有しているとか、そういう体制をつくるということは大事なことなんですね、そういった点で、このネットワークに期待するんですけど、もう 1 つは、学校サイドから見ていきますと、やはり一番今は、キャリア教育、ふるさと学習、ICT 教育、これが市長が言われている３つのプロジェクトの若者定住にも、すごく関わって来ると思うんですけれども、折角小中一貫してグランドデザインの中にキャリア教育が９年間の見通しが立てられているんですが、それをどこでどうゆう風に関わっていくかというところが、明確で無いと、ここはやっぱり CS の出番でもあるし、例えばそういう中に、今までなら、地域の代表者や PTA の代表者とか、そういう方に限定されている方も多いんですけど、特に私は、高校・企業と学校をコラボして考えていく時代だと思うんですね。もっともっと色んな刺激をもらえるし、知識・技術ももらえるし、それが今度、高校も普通科を新設していこう

と中教審の答申も出されてましたですけれども、形をつくってもそこに行くための積み上げが無いと子どもが自ら選択するためには、それだけの９年間の積み上げが大事であるんですけれども、そのためにもネットワークをきちっとしていただいて、そこに期待していきたいなと思います。以上です。

(市長)はい。それについて、最終的に教育長から見解をいただくとして。ほか、ご意見としていただきたいと思います。

(教育委員)市民センターとしての本当に、役割というのは、凄い重要だなと感じています。どちらかというと、市民センターで行われてる色々なサークル活動であったりというのは、やっぱりちょっと今の私の感覚ですけど、高齢者中心なのかなあという風に感じています。それをなんとかこう先程もお話がありましたけど、子どもを巻き込んでその忙しい３０代４０代の方にも地域に参加してもらうという形をとっていく、これから大事なんじゃないかなあと思っています。各地域づくり色々子ども達に色んな事を提供してくれているのが、今の現状かなあと思いますので、これからはやっぱり子ども達が主体的に考えて簡単に子どもの方から地域貢献出来るようなことを考えていけば、それがまた、地域とのつながりが強くなって、こう、市にも愛着を持つ、というような事に繋がっていくかと思いますので、ちょっと、また、それは地域づくりの方の仕事になるのかなあ、学校の方ももちろん、学校教育の方も、コミュニティ・スクールですね。それが中心となって、子どもが主体的に何か地域貢献出来る様な場というのをつくっていければいいかなと感じました。

(教育委員)ありがとうございます。冒頭に市長の方から、資料の提示についての改善点ということで、お話いただいて、私も幾つかちょっと、気が付いたところでお願い事項といいましょうか、次回に向けてのまた、ご検討事項ということで申し上げたいと存じます。

まず、１つ目には、これだけのですね、データをお持ちですので、もう少し全体像が分かるような形でお示しいただけると助かるかなと思いました。例えば１の利用状況の年度別推移で、折角この５期の数字があって、そして平成３０年度には、非常に７つのその１５の拠点の内、７つの拠点で非常に最高のですね、利用者数を記録されていると、そういったことについてグラフ化をですね、合計ペースでまず、グラフ化をしていただいて、まず、何故平成３０年度は多かったのか、分析ですね、これは必要かなと思います。で、口答ではお示しいただいたのかもしれませんけれども、そういったような点、それから、令和元年度、また、今年、令和２年度においては、まあ、恐らく縮小しているだろうなという事のお話があったんですけれども、コロナ以外にでもですね、令和元年度で何故縮小しているのか、これがまた、非常に疑問でもある訳で、そういった面でですね、折角その推移をお示しいただいているのであれば、利用団体別もそうなんですけれども、その増減の分析をまず、全体から入っていただいて、細かいところにもブレークしてちょっと、示していただいくのが一つあ

るのかなあと思います。それと、この最初の利用状況の年度別推移のとこでもう一つ、今後見据えた場合ですね、長期的には人口の増減といってもまあ減る方、かつ、高齢化率が高くなる、過疎化の早く進む地域、こういったところに焦点を当てていただいた時に、よりですね、そのコミュニティのこういう活動に参加している地域と、そうでない地域、これがはっきりしてくると思うんですね、それを各市民センターの利用想定人口との対比ですね、利用者の率を出していただいて、その比率のもとで、分析をしていただく事が大事ではないんじゃないかなと思います。その中でですね、コミュニティが上手く機能していないんじゃないかという早いシグナルがここに出てくるんじゃないかなあという面では非常に貴重なデータだなとこうゆう風に思います。

それから、次の点で、モデル活動を、というかですね、非常に良く上手くいっている事例ということで、口頭で最初に全体説明のなかで、あ、そうゆう活動もやられている、あ、こういう感じで広がっているかと、いうのが非常に良く分かりました。やはり、そういった説明が最初のこの資料２の最初のところのところで、まあ、全体像というか、グランドデザイン的なものがあって、誰が一体中心になってやられているのか、高齢の方だということで、７０歳以上７５歳以上の方が非常にご活躍いただいているような実態をやはり、はっきりと出さないと、間に合わなくなるんじゃないのかと思います。私も、こないだからちょっと、研究活動の中で、アンケート調査を色々かけようとしている時にですね、日本の人口構成比というのが、皆さんもご存じのように非常にその思った以上に高齢化率高い中で、その数字を見るとですね、非常にちょっと、先に対して不安なものと、何とかしなきゃなあという気持ちがますます出で参ります。そういう事でも、この利用している方々の年代層別のですね、やはり分布をしっかりとっていただいて、そういう中の推移を見ていただくことも一つなのかなあと、今これが、最初の１の批評です。これが、コミュニティのその崩壊防止という面では、人口構成高齢化率、過疎化率と合わせた形での推移をみて、そして、分析をしていただくと。それから、２つ目の３ページの点につきましてちょっと思ったんですけども、先程つつじが丘とかですね、桔梗が丘、それから非常に多い利用者の方いらっしゃる、美旗地区とか、こういったところの数のことと合わせて考えた時に、この３ページ目の市民センターの主催事業ベースで見た時の主催事業の回数、それから、令和元年度の実績といわれるところに、予定者数という事で多分これぐらいの人数が集まるだろうというとこの最初の、まあ、想定での、その、人数かなあと思うんですけれども、枠の事だと思うんですが、これが、ちょっと、割合を出してみましたら、地区で非常に大きな差があるわけですね、例えば、箕曲で 95 回と、これはあの、予定者数でいくと一回当たり 20 人参加されているんですね、箕曲よりも利用者数が多い桔梗が丘、桔梗が丘南、これは、それぞれの地区の活動の方が中心で、余り市民センターの主催事業を入れる必要がないというご判断なのか、一回当たり 50 人なんですね、それとかですね、中央ゆめづくり館これも一回当たり 31 人とか、地区によって何か、市の方で重点的にそういう市民センター主催事業を持っておられるのかなあと、そういう戦略的なイメージを私は持ったんですけれども、そうじゃなくて自然的にですね

こうなっているのであれば、反対にそれは何故そうなっているのか、これも見る一つの重要なですね、貴重な資料になっているんじゃないかなあと思いました。例えば、箕曲でいうと、1サークル当たりの平均人数も一番高いわけですね。でも、この地区が何か成功しているというようなイメージもないでもない訳ですし、活発な雰囲気がですね、箕曲とか、美旗とか、やっぱり、回数が多いところというところは、何かご要望があって、市民センターの事業で人が集まりやすい状況があるんじゃないか、そういう事も、市の方にですね、担当されてる、お世話されてる方が電話して聞くというようなベースはもう古いと思います。そうじゃなくて、ホームページできちんとアップしていただいて、各活動を横並び、横展開で切るようにベストプラクティスをですね、市民のどなたでも見られるような形でこうゆうモデル活動をやっていますよという事を、もう、最初は箇条書きでも良いと思うんですよ、箇条書きで、そんなん、写真なんか付けなくても、例えば、箇条書きで、こういうアイデアがあるんだ、こういう風にも使えるんだなあと、こんな事もやれたらいいねと、例えば、民謡コーラスが駄目だったら、次何するかということがあるわけなんですから、是非ですね、次のコロナ禍のこの新しい再設計に向けて、一つ工夫していただける余地はあるんじゃないかなと思います。非常に貴重なデータをお示しいただきましてありがとうございます。この点いかがでしょうか。

(市長)はい。

(事務局)ありがとうございます。そうですね。先生の分析ありがとうございます。箕曲地域ですね。最近、その主催事業が単発、ちょっと、企画をねるのも大変、参加者集めるのも大変というこうで、単発講座が多い中で、箕曲地域は連続講座というのをたくさん開催されてるような状況で、一回当たり、一回来ていただくと、又、次、三回、四回というのがありまして、連続した講座なんかもしていただいていて、コロナ禍であっても、リモートで先生が自宅から体操をしていただいて、皆さんに見ていただく様な取り組みなんかも、先進的に進んでやっていただいているような地域でございます。はい。後、また、色々細かい所、ちょっと分析させていただきます。はい。

(市長)はい。それでは、教育長、最後に。

(教育長)ありがとうございます。先程から、色んな形で地域の生涯学習センターに関わってのネットワークの構築という風な事でお話をいただきました。私の方から、今年入らせていただいて、後期計画を立てる中で、今までコミュニティ・スクールという事で、各地域で丁寧に耕しをしていただきました。丁寧に耕しをしていただいた中で、本年度の後期計画の中で、スクール・コミュニティという風な事を打ち上げさせていただいた中で、これについては、学校で育ててきた子ども達をやはり地域にお戻しをする中で、地域の担い手であったり

とか、あるいは、地域の活性化の中で、それこそ、正にSDGsの考えではありませんけれども、子ども達の活躍できる場をつくっていきたいと、いう風な事で考えた訳でございまして、そのことが、これから先、例えば、災害であったりとか、或いは、産業であったりとか、いう風な事が災害の時は、子ども達が中心となって、地域の方をお助けする、或いは、産業、子ども達が地域に戻ることによって、持って帰ってくる、いう風な事で、若者定住ではありませんけれども、先程からの若者定住の中で、子ども達が帰って来たときに地域の中で活躍をしていくと、いう風な場をつくっていきたいなあという風な事を考えた訳でございます。正に、ほんとに、子ども達が地域に戻るためには、その地域で子ども達が心地よい居場所があったかどうか、いう風な事が、やっぱり子ども達が地域に戻る為には非常に大切な要素だという風な事を聞かせていただいたこともございます。正に、先程、教育委員の方から言われた様に子ども達が参画をする、参画することによって、お互いが認められる、ようやったなあという風に認められた事が、昔の経験が子ども達がやっぱり、地域に戻ろう、或いは、地域に故郷に帰っていこうという風な事が非常に大切になってくるのかなあという風に思っておりまして、その事が、取りも直さず、地域活性していく、いう風な事になっていくのかなあと言う風に思わせていただきます。また、その事が、また、地域に戻ることによって、仕事を持って帰ってくる、持って帰ってくることによって、名張の発展につながっていくのかなあという風に思わせていただいて、コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ、まして、そこの、その一つの切り口として、ここにあります、生涯学習センター機能としてのネットワークを構築することによって、子ども達も活躍できる場、また、もっと、学びたいというようなその機会を与えることによって、リカレント教育ではありませんけれども、自分たちがもっと更に成長していきたいという風な事が、今後、大切になってくるのかなあという風に思わせていただいております。

一つの例で、百合が丘の放課後児童クラブというのがございます。放課後児童クラブが、子ども達が小さい時に培ったのが、中学校に入り、小学校から卒業して中学校に入ります。中学校に入るとその中学生がその放課後児童クラブの運営を手伝いに行く、その手伝いに行った中学生が、また、大人になって、また、市民センターを手伝いに行く、いうような事を聞かせていただいた事がございます。正に、そういう風に子ども達が、活躍できる場、或いは、その成長した後も活躍できる場をつくることが、やはり、大切になってくるのかなあと、つつじが丘でしてくれました、つつじっ子会議ですね、今回、文科省の表彰も受けられましたが、やはり、つつじの子ども達が活躍できる場、認められる場というのをやっぱり大切にしていきたいなあという風に思っておるところでございます。そのことが、取りも直さず、地域の担い手、地域の活性化の育成につながっていって、その持続可能な名張市、持続可能な地域という風な事につながっていくのではないかという風な思いがあるわけでございまして、このことも含めて、今後、ネットワークの、それこそ、あの、教育委員さんから言っていただいた様に、本当に、もっとブラッシュアップしていく中で、当然、何のためにこの行事を組み立てていっているのかというような整理も必要になって来るのかなあと思

わせていただいているところでございます。本当に、このような事で、今後、また、これから先、今からスタートするわけでございますけれども、色んな意見をいただきながら、組み立てていきたいなあという風に思っているところでございます。

(市長)はい。非常に貴重なご意見を頂きました。これちょっと、事務局の方で整理し次に生かす、或いは、また、報告もしていただくと、こういう事でいただきたいと思います。これ、ネットワーク化、これをもっと進めて顔の見える環境をつくっていったらもっと良いわけです。それが出来てきたら、色んな事が叶えられる訳ですし、正に、市民センター、高齢者の人の参加が多いなあと思っておりますが、若年層の社会参加、或いは、地域貢献、こんなものを考えていかなければならない、それと、基本的に資料の作り方が、まず全体像がきちっと見えるようにしていかなければという事であったり、今、人口、この少子高齢の中で人口減少していく、市民センターのその活用というか、そんな事についての提案もいただきましたし、人口と産業と社会保障というのは、今、私、研究させていただいているので、非常に興味があるご意見であったという風に思っています。いずれにしても、分析をもうちょっと深掘していかなければならない、こういう事でございますので、ちょっと事務局頑張ってまとめをしていただきたいと思います。

３．　その他について

それでは、この辺で終えさせていただきたいと思います。その他で何かあったら。事務局、何かありますか。

(事務局)今回、特には。

（市長）無いですか。その他。委員さんの中で、何かあったら。いいですか。
はい。ちょっと、時間オーバーしてしまいまして、申し訳ございません。非常に有意義な総合教育会議であったとこのように思ってございます。どうか、引き続きのご指導もよろしくお願い致したいと存じます。それではこれで、三回目を閉じさせていただきます。ありがとうございました。